

2018年10月4日

「株主・投資家との信頼関係構築を重視」

コードやルールに対応し、開示と対話を積極化

— I R 優良企業賞 2018 応募企業の調査結果より —

一般社団法人 日本IR協議会（会長：泉谷 直木 アサヒグループホールディングス株式会社 代表取締役会長）は現在、IR優良企業賞2018の審査を進めています。今年は、日本IR協議会の会員企業のうち299社がIR優良企業賞2018に応募しました。

本リリースは、応募企業299社のアンケート調査の集計結果を参考までにご報告するものです。IR優良企業賞は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組んでいる企業を表彰するもので、3段階の審査を経て決定します。最終審査の結果は、11月中旬に発表する予定です。

【調査結果の概要】

(1) IRの目標に「株主・投資家との信頼関係の構築」を挙げる回答が増加

「IRの目標を設定し、明文化している」と回答した企業284社（95.0%）のうち、その具体的な目標として最も回答が多かったのは「株主・投資家との信頼関係の構築」（271社、95.4%）、「企業・事業内容の理解促進」（同）という結果だった。

(2) 経営トップの関与度が深化

投資家向け説明会において、「経営トップが登壇し、トップ自らが投資家との対話に応じる」との回答は全体の98.7%に達し、非常に高い割合を占めた。直接的に資本市場の意見を取り入れることで、発信力の強化に活かそうとしている。個人投資家向け説明会に経営トップが参加する例も増えている。

(3) コーポレートガバナンス・コードへの対応が充実

コーポレートガバナンス・コードへの対応も年々充実しており、なかでも「取締役会が、そのあり方を議論して課題を洗い出し、そのプロセスや対応を可能な限り内外に説明している」という回答企業が3年前（2016年）の調査と比較して19.4ポイント上昇（47.0%→66.4%）している。また、「社外取締役がどのような活動をしているかを報告・説明する」という企業が増加していることも確認された。

(4) 非財務情報の開示が積極化、投資家訪問やESG説明会の実現にも取り組む

「IRと連動させてESG情報などの非財務情報を開示しているか」との問いについては252社（84.3%）が取り組んでいる。実施割合はそれほど高くないが、「ESG説明会の開催」や「SRIファンド・ESG投資家を訪問する」といった活動も少しずつ広がりを見せている。

(5) フェア・ディスクロージャー・ルールを踏まえた情報開示体制に

FDルールの導入を背景に、情報にアクセスする機会の「公平性」や「自発性」を意識した開示体制を整えようとしている。これと並行してIRサイトの利便性向上に取り組む動きも目立った。「各種説明会における説明要旨、主な質疑応答をHPに掲載（日英）」、「決算説明会の動画に英語字幕を追加」、「非財務情報など、個人投資家が目にしても理解しやすいレイアウト構成に工夫した」などの回答が多く寄せられた。

本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 日本IR協議会

電話：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

担当：首席研究員 佐藤淑子、首席研究員 篠原哲郎、首席研究員 榎本豊、首席研究員 岩崎樹生

*日本IR協議会とは：1993年設立。IRの普及を目的とする非営利団体。2018年10月1日現在の会員数は600で、研修活動、情報発信活動などを行っている。2010年4月1日より一般社団法人へ移行。

URL：<https://www.jira.or.jp/>